

神戸市立小磯記念美術館

2018年8月3日(金)開催

対象：中学生以上 参加者数：15名

講師：大山 幸子 先生

大人のためのワークショップ

ドライポイント銅版画

銅版画家のふたりをクローズアップした展覧会「浜口陽三と南桂子展 ー不思議な世界への小さな窓ー」の開催に合わせ、銅版画を学び体験する大人向けのワークショップを開催しました。ドライポイントの御指導をいただくのは、版画家・大山幸子さん。あらかじめ下絵を持参してきた参加者へ、道具の使い方など、とても丁寧な指導をいただきました。

講師の先生を紹介

まずは、美術館スタッフより、本日の講師を紹介。



大山 幸子 先生

大阪市生まれ
京都市立芸術大学西洋画科卒業
同大学院版画家修了
教室&工房 MIGAKU 主宰
大阪芸術大学デザイン科講師

個展・コンクール等への出品など
精力的に活躍中



本日のプロセスの説明

1. 持参した下絵を、トレーシングペーパーに写し取り、清書する
2. 銅板に、トレーシングペーパーを裏向けて、カーボンで転写する
3. 銅版を彫る（ニードル・ルーレット・スクレイパー）
4. 銅版にインクを詰めて、拭き取る
5. プレス機で刷る
6. 紙を乾燥（水貼り作業）
7. 銅版の清掃

知っているようで知らないことがたくさんある、凹版画。本日の手順・プロセス・注意点やコツなどを教えていただきます。





拭き取りの塩梅が
仕上がりの違いに！



プリントの
デモンストレーション

いよいよ！

作業スタート！まずは版作り

ひとりひとりの机
上には、このよう
なセットが。下書
き用の用紙や、銅
版、ニードルなど
がセッティングさ
れています。



まずは、下絵を
転写します



慎重に、
慎重に...



つづいて、
版を削っていきます



恐る恐る削りはじめましたが、
皆さん、だんだん慣れてきました



下絵で出した世界観、
うまく表現出来るでしょうか？

インク詰め・拭き取り・刷り

このプロセスでは、このような材料や道具・器具を使用します。



インクやヘラ、拭き取りのウェス、洗剤など。



銅版画プレス機。ここに銅版・濡らした版画専用紙・更紙を置き、フェルトをかぶせて、プレスします。



いよいよ、プリントです。先生方のアドバイスをもらいながら、まずはインクをヘラで詰め、寒冷紗・軍手などで版を拭き取ります。この際の、インクの残し方、拭き取り加減が、仕上がりの風合いを左右します。



刷った紙の乾燥（水貼り作業）



プレス機で刷る際は、紙はまだ濡れています。乾く際に波打ってしまうことを防ぐため、まっすぐの状態に乾かせるよう、「水貼り」という作業をします。紙より少し大きいサイズの板に紙を置き、（切手の要領で）水をつけると接着できる水貼りテープで、4辺を固定し、この状態でしっかり乾燥させます。

今回のワークショップでは、刷り上がりを見て、版にニードルなどで再度調整・改良を加え、2～3回ずつ刷り上げていきました。



皆さんの **力** 作品

銅版画独特の雰囲気を活かした作品が多く、とても素敵です。

